

みずほCustomer Desk Report 2020/03/18号 (As of 2020/03/17)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.63
TKY 9:00AM	106.28	1.1163	118.45	GBP/USD	1.2264
SYD-NY High	107.86	1.1189	119.60	AUD/USD	0.6104
SYD-NY Low	105.90	1.0954	117.31		
NY 5:00 PM	107.67	1.0999	118.38		
NY DOW	21,237.38	1,048.86	日本2年債	-0.190	0.00bp
NASDAQ	7,334.78	430.19	日本10年債	0.005	▲0.65bp
S&P	2,529.19	143.06	米国2年債	0.4945	12.67bp
日経平均	17,011.53	9.49	米国5年債	0.7346	23.16bp
TOPIX	1,268.46	32.12	米国10年債	1.0662	33.07bp
シカゴ日経先物	16,700.00	▲150.00	独10年債	-0.4370	2.85bp
ロンドンFT	5,294.90	143.82	英10年債	0.5525	12.25bp
DAX	8,939.10	196.85	豪10年債	1.0135	20.95bp
ハンセン指数	23,263.73	200.16	USDJPY 1M Vol	18.23	▲2.86%
上海総合	2,779.64	▲9.61	USDJPY 3M Vol	14.04	▲2.17%
NY金	1,525.80	39.30	USDJPY 6M Vol	12.13	▲1.40%
WTI	26.95	▲1.75	USDJPY 1M 25RR	-9.28	Yen Call Over
CRB指数	130.29	▲2.43	EURJPY 3M Vol	13.70	▲1.38%
ドルインデックス	99.58	1.51	EURJPY 6M Vol	11.90	▲0.98%

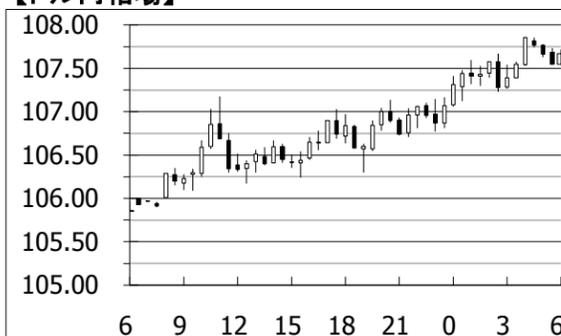
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
3月17日	13:30	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・速報	1月 1%/-2.3%	-
	18:30	英 週平均賃金3ヶ月(前年比)	1月 3.1%	3.2%
	19:00	独 ZEW調査(現状/期待)	3月 -43.1/-49.5	-30/-30
	21:30	米 小売売上高速報(前月比)	2月 -0.5%	0.2%

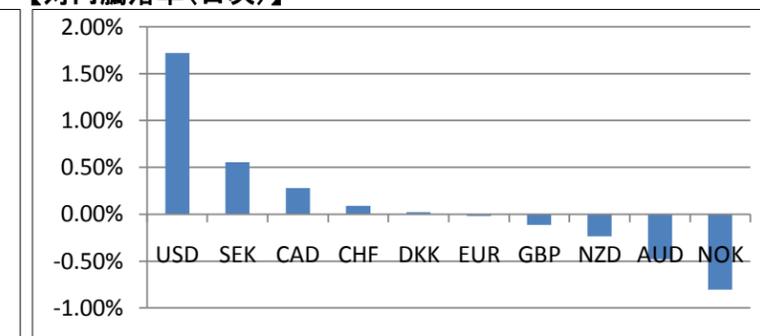
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
3月18日	08:50	日 貿易収支	2月 ¥929.5b	-¥1313.2b
	19:00	欧 CPI(前月比/前年比)	2月 0.2%/1.2%	0.2%/1.2%
	21:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	2月 1500k/1500k	1567k/1550k

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京	東京時間は106.28レベルでオープン。日銀のETF購入増額による上昇期待から、日経平均株価指数が大きく上昇に転じると107.17まで急上昇。しかし、滞空時間は短く、正午には106.40近辺まで戻した。午後に入ると、ドル円は106.20~50台の間を方向感なく推移し、結局106.44レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.44レベルでオープン。新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済が景気後退入りするとの観測が強まる中、ファンド解約フロー(ドル買い)の思惑が浮上。107.14まで上昇し、106.76レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.1172レベルでオープンし、欧州通貨を売って流動性の高いドルを確保しようとする動きから軟調に推移。1.1013レベルでNYに渡った。(ロンドンリー00531 444 179 山本)
ニューヨーク	海外市場で日銀ETF購入増額期待からドル円は107.17まで上昇し、その後利益確定の売りに106.17まで反落するが、日銀が過去最大のETFを購入したことが明らかになったことや、ドル買いが優勢となったことから、ドル円は106.76レベルでNYオープン。朝方は、米2月小売売上高は新型コロナウイルスの影響をあまり受けていないとの見方が事前にあったものの、マイナス成長となったが、ドル円の反応は限定的となる。その後も2月鉱工業生産が予想を上回るものの、前回分が下方修正されたことからドル円の反応は限定的であった。通信会社が「Fedが「コミューナルペーパー」を使った資金調達ファシリティを今日にも復活させる可能性」と報じたことから(後に「ニューチン」財務長官が正式承認)資金供給に対する不安が一旦後退し、ドル円は107.59まで上伸する。その後、トランプ大統領が今後国内の移動制限の可能性があることや、国民一人当たり1000ドル以上の直接支援を検討していることを明らかにしたが、特段のサポートにはならず、大幅高だった株式市場が上げ幅を縮小させる一方、ドル買いが継続したことから、ドル円は107.67まで戻す。午後に入り、米金融当局が銀行のレバレッジと会計規則の緩和を検討との関係者の話が伝わり、株式市場が大幅高で推移する展開に107.86まで戻し、107.67レベルでクロスした。一方、海外市場でドル買いが優勢となったことから、ユーロドルは1.110ちょうどまで下落し、1.1013レベルでNYオープン。朝方は欧州各国政府の様々な対応が伝わるものの、ドル買いが継続したことから、ユーロドルは1.0954まで下落する。その後は株高を受けたユーロ円の買いに下値をサポートされ、1.1020まで戻し、1.0999レベルでクロスした。(NY井上)

【マーケット・インプレッション】 主要各国の政策対応と今後の為替は

昨日米国は、新型コロナウイルスによる経済不安への対策として、現金給付を盛り込んだ最大1兆2千億ドル相当の景気刺激策の協議に入ると伝えられており、これを好感した米株式市場は反発している。EU加盟国は16日に各国がGDPの1%分の財政出動を実施することで合意し、英国も昨日第2弾として大規模な資金繰り強化策を発表。中国は日本は企業への信用保証拡大や個人への給付などの経済政策を検討しているとされる。IMFは16日、G20が2008年のリーマン危機後に拠出した年9千億ドル(約96兆円)を上回る政策対応が必要だと指摘したが、現状ではそれを上回る経済政策が各国より打ち出されていると言えそうだ。

また金融政策に目を向けると、FRBが量的緩和を再開、ECBや日銀が質的ないし量的緩和策を強化。政策金利については日欧が据え置いているものの、米国が2度に渡って計150bpの緊急利下げを決定し、英・豪など他の主要国も利下げを決定している。短期的にはこれら財政・金融政策の決定により、パニック的な株の下落やそれに伴った円買いは落ち着くだろう。だが一方、米国は追加利下げのカードを使い切っている(マイナス金利に踏み込む可能性を除けば)という見方がされてしまうし、ここまでドル買い需要を支えていた「主要国内での相対的な高金利」という地位が崩れることにより、中期的にはドル高に調整が入る可能性が高まったと考えている。(高村)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ブル	ブル	ペア	ペア	ペア	ペア

ブル	ペア
8	12

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。